

がん医療の充実を加速

都内病院で 先進的な診療体制視察 竹内副大臣

竹内譲厚生労働副大臣（公明党）は9日、東京都中央区の聖路加国際病院で福井次院長らと会い、がん診療や医療体制のあり方などについて意見交換し、院内を視察した。

同病院は、厚労省指定の地域がん診療連携拠点病院。乳がんなどに特化した診療を行う「プレストセン

ター」や外来での抗がん剤治療を行う「オンコロジセンター」の設置、高度で専門的な腫瘍内科医の配置など、がん診療の先進的な提供体制を整えている。

席上、福井院長は、同病院が進めるがん診療体制を説明。その上で、日本の医療体制について、リハビリテーションを担う回復期病院が「不足している」と指摘し、医療機関同士の連携

を進める必要性を訴えた。

また、医療連携が進むとして、地域で医療と介護、生活支援などのサービスを一体的に受けられる「地域包括ケアシステム」を評価した。

「速化プラン」の議論の参考にする。がん検診率向上や受動喫煙防止策などの予防を進め、医療機関連携の強化を図りたい」と語った。



竹内副大臣

は、院内の緩和ケア病棟やオンコロジセンターなどを視察後、年内をめどに政府がまとめる『がん対策加

がんの緩和ケア病棟の病室で福井院長から説明を受ける竹内副大臣ら＝9日 都内